

# 序 言

「咲く花の匂うが如く」とうたわれた平城京は、唐の長安の都を4分の1に模して造営され、シルクロードの東の終点として、中国文化を導入し、平城京に偉大なる天平文化の華を咲かせたのでありますが、その歴史は、1260年の輪廻により繰返されて、本年2月1日には、日本民族の古都・奈良市と中国民族の古都・西安市とが友好都市締結をなし、昔の文化の交流、友好往来の復活がなされた意義深い年であります。

この時期に、平城京の発掘調査並びに復原整備計画の推進が文化庁の手で進められ、我が奈良市といたしましても、朱雀大路の復原を計画し、奈良国立文化財研究所のご協力によって、平城京の羅城門と朱雀門を結ぶ中心街路である延長3.7km幅員85mのこの大路の規模を確認する目的で発掘調査を実施し、その実態を確認することができました。

この平城京の中心街路である朱雀大路確認により、従来、推定から平城京の条坊地割等について研究されていたものが、現地に合った復原計画の研究が進められることとなり、この調査報告書は平城京の保存に対する貴重な基礎資料として、又、本市の都市計画を推進する上にも重要な資料として活用できるものと信じ、よろこびにたえません。

今後は、この調査結果に基づき、政府各関係省庁の一層のご理解とご協力を得まして、我々が奈良市100年の大計として、その実現を念願いたしております。平城京朱雀大路復原計画が国家的事業として積極的に推進されんことを心から念じますと共に、私も今後一層、これが具体化に努力いたす所存でございます。

最後に、本調査にご協力いただきました関係各位のご労苦に対し感謝申し上げ、朱雀大路発掘調査報告書刊行のご挨拶といたします。

昭和49年3月

奈良市長 鍵田忠三郎